

要望書

北海道知事 鈴木 直道 様

2024年9月4日

北海道の水源の森・自然生態系の維持には相応数のヒグマが不可欠

軋轢低減は機械的な頭数低減ではなく、被害防除対策等で



～クマたちが造る水源の豊かな森を次世代へ～

一般財団法人 日本熊森協会（実践自然保護団体）

（本部事務所）〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4

Tel : 0798-22-4190 Fax : 0798-22-4196

Mail: contact@kumamori.org

会長 室谷 悠子（弁護士）

北海道支部長 鈴木 ひかる

設立 1997年 会員約 21000人 全国29支部

●北海道の自然生態系を維持するには相応数のヒグマが必要

自然生態系は多種多様な動植物が密接にかかわり合って、絶妙のバランスの上に成り立っています。北海道の豊かな自然生態系を維持するために、最大獣ヒグマの果たす役割はこの上もなく大きなものです。一例をあげると、スズメバチの巣を暴いてハチを食べてしまうことで、スズメバチが増え過ぎないようにコントロールしています。シカ数を調整しているかもしれません。森の木々の枝を折って実を食べることで木々は剪定され、次の年は一層元気に枝を伸ばします。あの大きな体で大量の食べ物を食べ、大量の糞をしてくれることで、森の豊かな自然が維持されます。絶滅寸前の数まで減らせばいいという考えは、自然生態系の仕組みを知らない人のいうことです。クマを絶滅させてしまった九州では、水不足が頻発し、大雨の度に山が崩れ、災害が後を絶ちません。クマたちが造る森は最高の保水力を誇る災害に強い森で、森から湧き出る滋養豊かな水が北海道の豊かな水産資源を育てています。人間はクマ被害ばかり問題にしますが、大きな恩恵を受けていることも知るべきです。

●毎年1300頭のヒグマを機械的に駆除することは無意味、生息地の保証や被害防除の方が有効

今年、環境省は、シカ、イノシシに次いで、クマを指定管理鳥獣に指定し、生息数の大幅低減をめざして捕殺強化を図ることができるように25億円の予算を付けました。

今年8月、北海道庁は今後、毎年1329頭のヒグマを10年間駆除して、軋轢が顕在化していなかった2001年～2010年代の推定生息数である7500頭～1万頭にまで生息数を低減させると発表しました。現在、ヒグマの生息数を正確に推定する方法はなく、適正頭数が何頭かも、人間にわかるようなものではありません。春グマ狩りで山にいるヒグマを殺しても軋轢低減には結びつかないし、数ばかり気にして箱罠でヒグマを獲っても、また次のヒグマがやってくるだけで非効率です。大量に捕殺しても、絶滅させない限り、被害はなくならないのです。被害防除、環境整備に予算を使った方が、確実に人とヒグマの軋轢は減ります。

風車を尾根に設置すると、ヒグマが山から出て来てしまいます。生息地保証のため、再エネ事業規制が必要です。

設立28年目の日本熊森協会は、水源の森を保全・再生する全国組織の実践自然保護団体です。北海道にも2022年に支部ができ、現在会員数は550名、ネットワークが道内全体に広がっています。**お願い：道庁のヒグマ検討会に、研究者ばかりでなく、私たち自然保護団体も入れてください。**